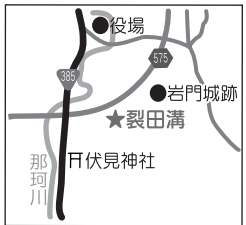


ながわ

那珂川町郷土史研究会



裂田溝20

嶋添堰－③周辺

寺山田地区は、昔から歴史や伝承などが多く残る文化豊かな地域です。平成18年度の改修工事では「橋15嘉七橋」の橋幅が広くなつて寺山田地区への車の進入がスムーズになり、生活道路としても便利になりました。

裂田溝は嘉七橋を過ぎると右へ大きく曲がり、その後ゆつたりと左へカーブを描きながら流れます。ここに「取水口⑥」と「嶋添堰③」があります。5本の石柱は平成19年度の改修工事で新しくなり、手前の「取水口ゲート」から北側の田へと送水しています。

今回の水路整備工事業（改修

こられた花樹が残っています。杉、孟宗竹、榊、椿、山椒の花木。中でも柿の種類が多く、ガンザン、シモフリ柿、松木ガンザン、那珂郡ツグラやハガクシと呼ばれる渋柿などがあります。また、そばにある畑では種々の季節の野菜が作られています。もしかすると、これらの野菜はJAの「ゆめ畑」を通じて私たちの食卓へ上っているのではうか。この辺りの水辺の雑草は、たつぷりの水の恩恵を受けているせいか成長が早いこと！4月には一本もなかった雑草が、7月には一面に覆い茂っていました。そこで、お盆に帰省する人たちに新しい裂田溝を見ていただきたいと草刈りをしました。汗まみれになつていて姿を見られた近所の方からスイカや飲み物などの差し入れをいただき、大感激でした。かわいらしいお孫さんの笑顔が忘れられません。お心遣いありがとうございます。

「橋16木の橋」の1m下流に、「取水口⑦前川堰巻き上げ」がありま

工事）も最終年度となりましたが、工事後に最も様変わりしたのは「嶋添堰③」周辺です。この辺りは、散策を楽しむ人たちが好むコースの一つでもあります。以前は、秋の風物詩でもある柿の実が色づく季節になると、夕映えの柿並木がなんと美しくなったことでしょう。あいにくの渋柿で「ちよつと一つ失敬」というわけにはいきませんでした。が、「この景観をぜひ残したい」という要望も多く寄せられました。代々守り育ててこられた地主さんや地元の人へもとより、行政を含めた各方面からの提言も検討されましたが、水路の手入れ作業を担う農家の高齢化や大雨により護岸が崩れる被害なども続き、貴重な歴史遺産を未来へ受け継いでいくためにも改修工事が優先され、柿並木の保存は断念されました。裂田溝はこれまで1,300年以上に渡つて流域の田畑を潤し、私たちの生活を支えてきた歴史ある古代用水路です。これからも現役の農業用水路として、大切な使命を担っていくことでしょう。

新しくなつた石積み護岸はまだまだなじみませんが、将来の景観を考慮した周辺の植樹も考えられているようです。幸い遊歩道沿いには、地主さんが大切に育ててす。70m下流にある「倉掛堰」でせき止められた水は、さらに手前の「湯浅殿橋」での水圧の高まりを利用し、前川堰のハンドル操作によつて北側の田へと送水されます。この辺り片島の田は、昔は「カキノウチ」と呼ばれていました。カキノウチの田のあぜには「御立石」と呼ばれている舟形の石があります。地元伝承では、神功皇后が迹跡岡（安徳台）で「大岩盤を通させ給え」と祈願した場所だと言われ、別名「ツキガタ石」とも言われています。この石は、以前は農耕の妨げになるとして田の中に埋められていました。しかし昭和3年、主基斎田（※）の候補地に挙げられたとき、山田の青年たちが鉄の棒を土中に突き刺して探し出し、田のあぜに据え直しました。主基斎田に決定されたときは、御座所に充てられることになっていました。

次号は、湯浅殿橋周辺を紹介し
ます。

静かなる風生まれおり
裂田溝に添
って柿並木
歩みぬ
輝雄

コースメモ

54. 取水口－⑥
(嶋添堰－③)
55. 橋－16(木の橋)
56. 取水口－⑦
(前川堰巻き上げ)
57. 橋－17(湯浅殿橋)
次号へ
57. 橋－17(湯浅殿橋周辺)

史跡メモ

御立石
(ツキガタ石)
老林城跡を望む
(西隈・別所)



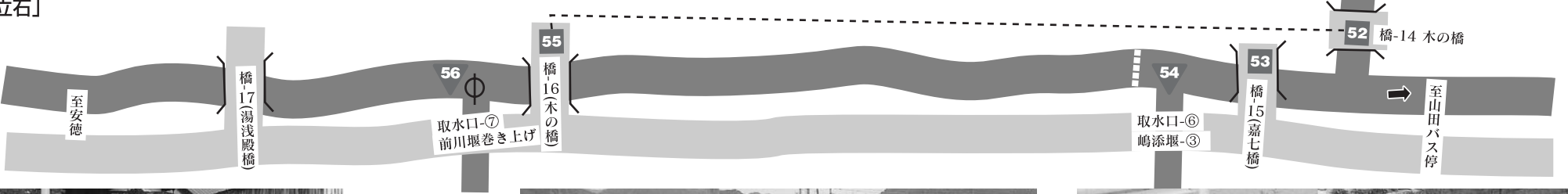
神功皇后伝説の「御立石」



夕映えの柿並木。丹精込めて育てられた果樹なので、採るのは写真(撮る)だけにしましょう



溝の遊歩道沿いには、四季折々の樹木や草花が彩りを添えます。矢印の部分は、親水公園予定地です



草刈りをしているところへ、スイカや飲み物をいただいた近所の方。かちわり水がおいしく、何杯もお代わりしました



故郷の宝でもある裂田溝を帰省する人にも楽しんでもらいたいと、お盆前に水辺の草刈りをしました



取水口⑦前川堰巻き上げ



嶋添堰③石柱と取水口ゲート